



学生協議会学生委員代表から

学生委員代表抱負

地域社会コース 3 年次 高橋元気

今期の学生委員代表を務めさせていただきます、地域文化学科地域社会コース 3 年次の高橋元気と申します。私は 1 年次から学生委員として活動させていただいていますので、今期で 3 期目となります。以前から続いているコロナ禍において、学生協議会としての活動は限られていますが、学生の声を学部へと届けて、よりよい学生生活を送るための橋渡しの存在になることを目指して頑張りたいと思います。1 年間よろしくお願いいたします。

今回執筆という形で、意見を発表することができ、機会をいただいたので、学生協議会に関わる要望について少し書いてみたいと思います。私が 2 年間、学生委員として活動してみて、感じたことはやはり学生委員同士の交流が少ないのではないかと思います。コロナ禍ということもあって、対面での活動が少なく、そのような機会を設けることも難しいとは承知していますが、同じ組織の一員として、顔や名前を覚えたいという気持ちが私の中にはあります。ただでさえ、学校教育課程と地域文化学科は授業の関係で交流が少ないのに、学生協議会という貴重な交流の場でも他のコースのお話を聞けないのは少し残念です。しかも、私の所属する地域社会コースでは縦のつながりも薄いため、先輩の研究の状況を教えていただいたり、後輩が苦労していることを手助けしたりすることもほとんどないのではないのでしょうか。そのような学生もこの学生協議会のコミュニティの中で、学年や学科、課程、コースを超えて様々な知見を得ることができるような組織にできれば、学生協議会をはじめとして、よりより学部へ変わっていけるのではないかと考えています。

最後ではありますが、この文章を読んでいただいた学生宛にメッセージを残したいと思います。学部には要望があるけど、学務の職員さんや教員の先生方に直接言いにくい、また恥ずかしくて言い出せない、そんな学生は一度、私に連絡をください。なにかしら対応したいと思います。私の学籍

番号は 1519574 です。学内メールでご連絡お願いします。また私にも言いづらい場合は所属、学年が同じ学生委員にお声かけください。充実した学生生活のために、教育文化学部と一緒に盛り上げていきましょう！



↓ 早朝の月



2/18・19 秋田の教師力高度化フォーラムを開催します

第13回あきたの教師力高度化フォーラムをチラシにあるように開催します。当初は対面とオンラインのハイブリッド型の開催を目指していましたが、新型コロナの感染拡大に伴い、全面オンラインでの実施となりました。学生のみなさんも参加可能ですので、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。

<https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/eventa/item.cgi?pro4&41>

秋田大学教職大学院

「令和の日本型学校教育」の推進—個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る—

【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】

第13回 あきたの教師力高度化フォーラム

本教職大学院では、年度末に実施する本フォーラムを院生が研究した成果を発表する機会としております。今年度も、学校マネジメントの視点や主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業指導法の提案など、現代の教育課題に基づく様々な発表を行う予定です。

2日目には、コラボ研修として独立行政法人教職員支援機構理事長の荒瀬克己氏による講演並びに「個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る」と題したシンポジウムを開催します。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2日目の講演とシンポジウムは会場参加とZoom参加のハイブリッド型による公開となりますが、多くの皆様の参加をお願いいたします。

◆期日 令和4年2月18日（金）・19日（土）

◆会場 秋田大学60周年記念ホール（教育文化学部3号館145教室）、他

◆対象 会場参加：秋田県内の教職員・研究者等、秋田大学関係者及び招待者
Zoom参加：全国の教職員・研究者・教育委員会指導主事・研修員・教員志望学生等
（Zoom参加は2日目の講演とシンポジウムになります）

◆日程 <1日目：2月18日（金）>

9：00 開場・受付（秋田大学60周年記念ホール前）

9：30 開会行事

9：50 秋田県総合教育センターとの連携による発表

・教職発展演習受講者（学部生）の発表

・秋田県総合教育センター研修員の発表

11：50 中間発表（学部卒院生1年、現職教員院生1年）

12：50 昼食・休憩

13：50 研究成果発表会①（学部卒院生2・3年）

<2日目：2月19日（土）>

9：30 開場・受付（同上）

10：00 研究成果発表会②（学校マネジメントコース現職教員院生、現職教員院生2年）

11：40 昼食・休憩

12：40 講演：「令和の日本型学校教育」の推進

<講師>独立行政法人教職員支援機構理事長 荒瀬 克己 氏

14：00 シンポジウム；個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る

<シンポジスト>

秋田県教育庁教育次長

宮崎大学副学長

<コメンテーター>

独立行政法人教職員支援機構理事長

<シンポジスト兼コーディネーター>

秋田大学教職大学院特別教授

石川 政昭 氏

新地 辰朗 氏

荒瀬 克己 氏

阿部 昇

15：55 閉会行事

*新型コロナウイルス感染症の状況により、計画を変更する可能性があります。変更がある場合には、本学教職大学院HP（<https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>）に記載します。

【主催】秋田大学教職大学院

【共催】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター

【後援】秋田県教育委員会／秋田市教育委員会

【問い合わせ先】秋田大学教育文化学部総務担当

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

☎018-889-2509 E-mail kyosou@jimu.akita-u.ac.jp



秋田大学

【卒業生からのメッセージ⑨】

信用保証協会での仕事と大学での学び

秋田県信用保証協会 清水 寛（2020年3月地域社会コース卒業）

秋田県信用保証協会の清水と申します。社会人2年生です。このたびはお誘いを受けまして『みなおと』に寄稿させていただく運びとなりました。卒業してからもこうして母校と関わらせていただけるのは光栄なことです。ありがとうございます。

私は平成28年4月地域文化学科に入学しました。これから始まる新生活に心躍らせたのも束の間、気づいたら卒業しておりました。言い訳をすると、大学の4年間は何事もなさめにはあまりに長いですが、何かをなすにはあまりにも短いのです。それゆえ、この場で語れるような立派な成功譚はないのですが、4年間を通じて多様な学問に触れ、気の合う友人と出会い、やりがいある職業に就くこともできましたので、良い大学生活を送ったとは言えるでしょう。

特に、恩師である臼木智昭准教授のもとで経済学の知見を広げられたことは、大変貴重な経験だったと実感しております。地域経済について興味を持ち主体的に勉強したことは、大学を卒業した今でも自分を構成する原動力になっています。なにより経済学が今の就職先に導いてくれたようなものです。学生時代に取り組んだ「学問」が現在の「実務」に直結している私は幸せ者かもしれませんね。

さて、現在私が勤務している信用保証協会ですが、業務内容の特殊さも相まってか、世間での知名度は控えめです。我々はいったい何者なのか、簡単に言えば「金融の面から事業者をサポートする」公的な組織です。ひょっとしたらみなさんが利用している飲食店や小売店などにも我々が関わっているかもしれません。業務も組織名もお堅そうですが、意外に身近な存在です。（当協会について詳しく知りたい方は「秋田県信用保証協会」でGoogle検索してみてください！）

そんな就職先で迎えた新社会人の春は、コロナによる緊急事態宣言の真っ只中でした。桜が散る頃には民間金融機関向けの「無利子・無担保融資」政策が始まり、その一端を担う当協会も多忙を極めました。新入りである私も無力ながらに全力で働き続けました。そのおかげか体力と根拠のない自信は身についたように思います。

ジェットコースターのような1年間を無事に終え、令和3年度になりました。そろそろ自分もスーツの似合う立派な職員になっただろうと錯覚したこともありましたが、現実はまだ甘くありません。実力不足を痛感する毎日、専門性の習得

にはかなりの経験を要するようです。初心を忘れず一歩ずつ成長していきたいと思います。

コロナ禍によってあらゆる日常が制限され続け、大学生のみなさんも色々な面で苦勞されていることと思います。ですが、オンラインありきのキャンパスライフを体験したからこそ身についた考え方や生き方もあるに違いありません。それは我々社会人が持っていない、みなさんだけの強みです。自信を持って将来に生かしてください。

大学生活はたった4年間で終わりです。気づいたら卒業していた、なんてことのないように、今を存分に楽しみましょう！



1/19 オンライン学部オープン説明会、1/20・21 オンライン模擬授業を開催

昨年12月2日の第1回に続いて、第2回のオンラインオープン学部説明会を1月19日（水）17:00～18:00にZoomにより開催しました。高校生など外部の参加者は48名でした。

内容は第1回と同じですが、全体会の後、学校教育課程、地域文化学科に分かれて、課程・学科、コースの説明を行い、それぞれで以下のように模擬授業を実施しました。また、教育実践コースの教科教育、音楽教育、美術教育、スポーツ・健康教育の教員による質問コーナーも設けました。

<学校教育課程>

◆英語教育コース Paterson Adrian 准教授
「How to pronounce English vowels」(英語の母音の発音)

◆理数教育コース(数学) 山口 祥司 准教授
「円周率について」

◆理数教育コース(理科) 林 正彦 教授 「速度とは何か? 一大学物理の授業から」

◆特別支援教育コース 鈴木 徹 准教授 「障害ってなあに?」

<地域文化学科>

◆国際文化コース 小倉 拓也 准教授 「人新世の哲学——SDGsの立体的な理解に向けて」

◆地域社会コース 益満 環 准教授 「秋大生が酒造り!? マーケティングのチカラで地域を元気にする方法」

◆心理実践コース 中野 良樹 教授 「心理学Ⅰ—心の科学史(入門編)」

1月20日と21日の17:00～18:00には、地域文化学科のオンライン模擬授業を実施しました。外部参加者は20日22名、21日8名でした。模擬授業は以下のものでした。

<1月20日>

◆国際文化コース 佐藤 猛 准教授 「西洋国家史論: ペスト大流行の「原因」を考える」

◆地域社会コース 中澤 俊輔 准教授 「政治学から見る世界・日本・秋田」

◆心理実践コース 木村 久仁子 准教授 「性格をどのようにとらえるか」

<1月21日>

◆国際文化コース 羽田 朝子 准教授 「中国社会文化論: 台湾文学における日本表象」

◆地域社会コース 和泉 浩 教授 「社会学の授業などでの学習と活動」

◆心理実践コース Hou Yuejiang 講師 「感情の働きを考えよう」



1/18 教育研究カウンスル・運営カウンスル合同会議を対面で開催

1月18日(火) 16:30～18:00 に教育研究カウンスル・運営カウンスルの合同会議を国際資源学部第2・第3会議室において対面で実施しました。本学部の場合、教育研究カウンスルと運営カウンスルのメンバーは同じです。学部長、副学部長、学校教育課程主任、地域文化学科主任の学内委員5名の他に、学外委員4名で構成されています。他に、執行部会議メンバーと、学部長適任者選挙管理委員会の林信太郎委員長、学務委員会の石沢真貴委員長が陪席しました。

学外委員の中では、久米寿委員(秋田県あきた未来創造部次長)が所用により欠席で、その他の石川政昭委員(秋田県教育庁教育次長)、鈴木太委員(秋田市教育委員会教育次長)、三浦廣巳委員(秋田商工会議所会頭)が出席されました。審議事項は、○教育文化学部長適任者について、○第3期中期目標・中期計画の検証について、でした。

外部委員の方からは、以下のような意見等が出されました。

○12/13 実施の1年生向けの講話を行ったが、来年度もこのような機会をいただきたい。ワーク

ショップなど、学生との双方向のやりとりを取り入れたいと思う。

○小学校教員が足りない状態であり、中学校も需要が増えてきている。秋田の教員に就職してもらえらる学生が増えるようお願いしたい。今後、定年延長との関係で、採用数が若干減る可能性がある。

○GIGAスクールで一人一台端末が確保された。それに対応して授業の改善、教員の資質能力の向上が求められる。協力をお願いしたい。



1/29 附属特別支援学校の公開研究協議会を開催

1月29日(土)に附属特別支援学校の公開研究協議会をZoomで開催しました。校外からの参加者は50名でした。

**【研究主題】新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～**

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

2次案内 令和3年度 公開研究協議会

本校では、昨年度まで「生涯学習力を高める教育課程の構築」を主題に研究を進めてきました。今年度は、当年度の研究成果を生かし、「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～」の主題の下、研究を推進しております。夏のセミナーでは、東京学芸大学の豊野敦先生の新講演の中で、生涯学習に向け、「態度を育てる」という御示唆をいただきました。現在、ワーキンググループでの成果等を授業づくりに結び付ける段階にあります。公開研究協議会では、1年次の研究をまとめ、今後の「生涯学習力」を高める授業づくりに向け、参加者の皆様と意見交換を行いたいと考えております。是非御参加ください。

2022年 1月29日(土) 10:00～15:15

会次第

10:00	開会行事
10:10	研究報告
10:50	意見交換
12:00	共有タイム
12:10	
12:25	
13:30	講演
15:10	閉会行事
15:15	

申し込み

次のいずれかの方法でお申込みください

①右のQRコードを読み取るか、本校ホームページから申込みフォームに入り、必要事項を入力する

②別紙申込書に記入し、FAXかメールで送付する

FAX: 018-862-8525
メール: info@shibata.ac.jp

*申込書はホームページからダウンロードできます

◆締め切りは1月14日(金)とさせていただきます

Web会議ツール「Zoom」を御準備ください

申込された方にはミーティングID等をメールでお送りします

*公開研究協議会の詳細は次項に記載

公開研究協議会の詳細

第1部【研究報告】 10:10～10:50

- ◆研究概要
- ◆授業づくりWGの取組
- ◆オリジナルマップの活用推進WGの取組
- ◆地域とつながるWGの取組
- ◆研究(1年次)のまとめ

第2部【意見交換】 11:00～12:00

テーマ「生涯学習力を高める授業づくりについて」

小学部：主体的に学習に取り組むための工夫(授業づくり)について

中学部：子どもの将来につながる作業学習について

高等部：卒業後の学びに接続するための生徒の自己理解を深める実践について

【共有タイム】 12:10～12:25 *各学部5分ずつ

第3部【講演】 13:30～15:10

「生涯にわたって学び続ける児童生徒を育てる授業づくり」

講師 都留文科大 准教授 堤 英俊 先生

- ・元特別支援学校教員
- ・日本学校保健会特別研究員2を経て、2014年より都留文科大教育文化学部教育学科専任講師、2019年より現職
- ・東京大学教育学部附属発達障害研究センター協力研究員・特別ニーズ教育学会理事
- ・著書：特別支援教育の場とグレーゾーンの子どものためにインクルーシブ社会への教育

学びは続くよどこまでも

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

*一部不明・不正確な箇所があります

【全国】

- 1/1：全国の重症者数が 50 人を超え、51 人となる。
50 人を超えるのは昨年 11/26 の 51 人以来。
12/11、12/12 の 25 人が最少であった。
- 1/4：全国の新規感染者数が 1000 人を超え、1268 人となる。1000 人を超えるのは昨年 10/6 の 1125 人以来。11/22 の 50 人が最少であった。オミクロン株の拡大が影響。
- 1/5：全国の新規感染者数が 2000 人を超え、2638 人となる。2000 人を超えるのは昨年 9/26 の 2136 人以来。
- 1/6：全国の新規感染者数が 4000 人を超え、4475 人となる。4000 人を超えるのは昨年 9/18 の 4700 人以来。
- 1/7：沖縄、山口、広島 の 3 県に、1/9 から 1/31 まですまん延防止等重点措置の適用を決定。
全国の新規感染者数が 6000 人を超え、6214 人となる。6000 人を超えるのは昨年 9/15 の 6809 人以来。
- 1/8：全国の新規感染者数が 8000 人を超え、8480 人となる。8000 人を超えるのは昨年 9/11 の 8802 人以来。
- 1/12：全国の新規感染者数が 13244 人を超え、8480 人となる。13000 人を超えるのは昨年 9/4 の 16014 人以来。全国の重症者数が 100 人を超えて 105 人となる。100 人を超えるのは昨年 11/8 の 101 人以来。秋田県の新規感染者数が 20 人を超えて 23 人となる。20 人を超えるのは昨年 8/28 の 26 人以来、10 人を超えるのは昨年 10/2 の 11 人以来。
- 1/13：全国の新規感染者数が 18000 人を超え、18859 人となる。18000 人を超えるのは昨年 9/2 の 18216 人以来。秋田県の累計感染者数が 2000 人を超えて 2001 人となる。
- 1/14：全国の新規感染者数が 22000 人を超え、22045 人となる。22000 人を超えるのは昨年 8/28 の 22859 人以来。全国の重症者数が 200 人を超えて 221 人となる。200 人を超えるのは昨年 10/25 の 202 人以来。秋田県の新規感染者数が 30 人を超えて 31 人となる。30 人を超えるのは昨年 8/26 の 38 人以来。
- 1/15：全国の新規感染者数が 25000 人を超え、25742 人となる。25000 人を超えるのは昨年 8/26 の 25038 人以来。
- 1/17：秋田県の新規感染者が 43 人となる。
- 1/18：全国の新規感染者数が 32000 人を超え、32197 人となる。昨年 8/20 の 25992 人を超えて最高となる。



- 1/19：全国の新規感染者数が 41000 人を超え、41485 人となる。
東京、埼玉、千葉、神奈川、群馬、新潟、愛知、岐阜、三重、香川、長崎、熊本、宮崎の 13 都県にまん延防止等重点措置の適用を決定。期間は 1/21 から 2/13 まで。
- 1/20：全国の新規感染者数が 46000 人を超え、46199 人となる。
- 1/21：全国の新規感染者数が 49000 人を超え、49854 人となる。全国の重症者数が 400 人を超えて 404 人となる。400 人を超えるのは昨年 10/13 の 413 人以来。秋田県の新規感染者数が 55 人となり、昨年 8/24 の 50 人を上回って最多となる。
- 1/22：全国の新規感染者数が 54000 人を超え、54576 人となる。秋田県の新規感染者数が 87 人となる。
- 1/24：秋田県の新規感染者数が 153 人となる。
- 1/25：全国の新規感染者数が 62000 人を超え、62613 人となる。全国の 1 日の死者数が 40 人を超えて 42 人となる。40 人を超えるのは、昨年 10/8 の 46 人以来。秋田県の新規感染者数が 245 人となる。
北海道、青森、山形、福島、茨城、栃木、石川、長野、静岡、京都、大阪、兵庫、島根、岡山、福岡、佐賀、大分、鹿児島 の 18 道府県にまん延防止等重点措置の適用を決定。期間は 1/27 から 2/20 まで。1/31 が期限となっている沖縄、山口、広島 の 3 県は 2/20 まで期間延長を決定。
- 1/26：全国の新規感染者数が 71000 人を超え、71633 人となる。秋田県の累計感染者数が 3000 人を超えて 3110 人となる。
- 1/27：全国の新規感染者数が 78000 人を超え、78931 人となる。全国の重症者数が 500 人を超

えて537人となる。500人を超えるのは昨年10/9の501人以来。秋田県の新規感染者数が266人となる。

1/28：全国の新規感染者数が81000人を超え、81810人となる。全国の重症者数が700人を超えて734人となる。700人を超えるのは昨年10/6の612人以来。

1/29：全国の新規感染者数が84000人を超え、84933人となる。全国の重症者数が500人を超えて537人となる。500人を超えるのは昨年10/2の719人以来。

【秋田大学】

1/9：学生のまん延防止等重点措置地域への移動は不要不急によるものを控え、真に必要な場合に限り移動日の1週間前までに届出、所属長の了解を得てから移動する。秋田に戻った日から14日間は自宅待機の上健康観察を行い大学構内には入構できない。まん延防止等重点措置地域以外への移動も必要がなければ控える。移動の場合は届け出で帰県後14日間の健康観察。大学構内でまん延防止等重点措置地域からの訪問者との面談は行わない。真にやむを得ない場合は面談の1週間前までに所属の学務担当に届出し、所属長の許可を得る。学外でも不要不急の接触は避ける。

教職員も基本的に同様の措置。

1/14：当面の間、課外活動は停止（オンラインは除く）、大会・イベント等の参加も自粛。1/17～1/23の期間、遠隔授業のみとなる。研究活動については2m以上の間隔で実施。

県外移動は不要不急のものは控え、1週間前までに届出了解が必要。帰県後14日間は自宅待機。構内で県外からの訪問者との面談・接触は控える。真にやむを得ない場合は所属長の許可を得る。学外でも不要不急の接触は避ける。会食等はできるだけ控える。会食は4名以下で。

教職員も基本的に同様の措置。

1/15・16：共通テストを実施。

1/20：帰県後の自宅待機期間を14日間から10日間に短縮。

1/21：学校推薦型入試Ⅱを実施

1/24：遠隔授業を継続するが、実験・実習・実技等の必要がある授業は座席間隔【2m以上】により実施可能。試験は学生の発話がないこと、感染防止対策を徹底すること、座席間隔【1m以上】で実施可能。研究活動：これまでと同様に、十分な対人距離（2m以上）の確保に留意。対面での授業・研究活動は、直近10日間に県外移動をしていないこと、県外者と会食等の接触が無いことを実施の条件とする。

1/27：講演会等イベント・行事（学内での会議等を含む）は原則として非対面式（オンライン・書面・メール等）で実施。

【学部・研究科】

1/18：教育研究カウンスル・運営カウンスル合同会議を対面にて実施。

【附属学校園】

1/29：附属特別支援学校の公開研究協議会をオンラインで開催。



発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。